

7月5日さいたま市長メッセージ

皆さんこんにちは、さいたま市長の清水勇人です。

皆さんは「認知症」を正しく理解していますか。認知症は誰もがなりうる病気で、2040年には、高齢者のおよそ15%にのぼる方が発症すると推計されています。

こうした社会を迎える中、認知症に対する誤解や偏見をなくし、誰もが暮らしやすく、認知症の人を含む「共生社会」の実現に向けてまちづくりを進めていくことが今とても重要になっています。

本市では、認知症を正しく理解し、本人やその家族を支援する「認知症サポーター」の養成を進めています。私自身も先日講座を受講し、認知症サポーターとなりました。

また、共生社会の実現に向けたまちづくりを推進する拠点として、今月1日、「さいたま市認知症フレンドリーまちづくりセンター」を中央区にオープンしました。センターでは、認知症に関する様々な情報発信や、認知症サポーター養成講座の開催などによる人材育成

すすめていきます。そして、地域住民や企業による活動や交流促進を支援するための相談窓口を開設しました。ぜひお気軽にお問い合わせください。

さらに、センターのオープンにあわせ、政令指定都市で初となる「認知症希望大使」を任命しました。認知症の方本人が生き生きと活動する姿を通して、啓発活動や情報発信の拡大を進めていきたいと思います。

認知症の方やその家族の方が地域で安心して生活し、誰もが希望を持って暮らすことのできる地域社会の実現をこれからも目指してまいります。